

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築1：文字学に関する用語・概念の研究」

2019年度第1回研究会

日時：令和元年6月8日（土曜日）午後13時30分より午後17時、6月9日（日曜日）午前8時30分より午後15時

場所：AA研304室

報告者名（所属）

6月8日

1) 荒川慎太郎（AA研所員）

「プロジェクトの進行状況について」

(On the joint-research project)

今年度の活動計画を説明・検討するとともに、第二期計画について試案を示した。

2) 落合淳思（AA研共同研究員，立命館大学）

「1 結合文字，合体字および合文，2 原字，繁文」

(1. Combining character, 'united character' and 'Ligature', 2. Original character and derivative character)

「文字学に関する用語・概念の研究」として、表題の術語について述べ、また検討をおこなった。1のうち、結合文字については、発音に影響を与える付加記号と意味に影響を与える付加記号を区分する方が説明しやすいという理解が得られた。また合文についても、非常に用法の幅が広い用語であり、文字ごとの個別性が強いことが判明した。2のうち、繁文については実態と一致しないため、術語名について再考する。

3) 黒澤直道（AA研共同研究員，國學院大學）

「線状性違反」

(Breach of linearity: Dongba Scripts)

文字研究術語の解説案として、ナシ族のトンバ文字を例に、「線状性違反」について解説した。トンバ文字では、(1) 現実世界の空間感覚が反映されること、(2) 中心的文字が中央に配置されること、(3) 文字の結合が見られること等の要因により、しばしば線状性の違反が起こることを述べた。

4) 清水政明（AA研共同研究員，大阪大学）

「変形漢字」とその周辺概念」

("Sinoform Writings" and related notions)

文字研究術語の解説案として、「変形漢字」に関して、「変用漢字」、「派生漢字」、「擬似漢字」との関連の中で主に西田龍雄（1981，2002），吉池孝一（2006）の定義を紹介し、チュノムを例にその問題点について指摘した。主な論点は、各概念間の区別が困難な例、いずれにも属さない例、新たな文字種の紹介、英訳の問題であった。

6月9日

5) 全員

2019年度第2回研究会に関する打ち合わせを行った。

6) 岡田一祐（AA研共同研究員，国文学研究資料館）

『日本語学大辞典』（日本語学会編，2018）の文字項目の検討」

(A review of writing-related articles of *The Encyclopedia of Japanese Linguistics* (The Society for Japanese Linguistics, 2018)

『日本語学大辞典』（日本語学会編，東京堂，2018）における文字論用語事典を編む参考としてその体系の確認といくつかの項目の内容の検討を行った。日本語表記特有の把握から，いかに通文字的に把握していくのかについてとくに議論を行った。

7) 荒川慎太郎 (AA 研所員)

「『文海』小韻同一音節字の配列について」

(On the order of Tangut characters which have same syllable in Wen-hai)

西夏語の『文海』系韻書・『同音』系韻書と音節配列の規則を概観し，『文海』系韻書における「同一音節字の配列」に関してどのような傾向があるか具体例とともに紹介した。結論として，「特定の派生字が元字より先に，特定の派生字が元字より後に配列される」という，やや特異な配列がしばしば見られることを示した。

8) 落合淳思 (AA 研共同研究員，立命館大学)

「漢字の造字に関する分類について」

(Classification about making methods of Chinese characters)

漢字の造字法について，その分類と統計の方法について示し，実際の統計データも2種類挙げた。ひとつは視覚的な表示がされた文字か否かの通時的統計であり，もうひとつは字形中に発音が表示されているか否かである。いずれも時代が降ると視覚的でない文字，および発音が表示されている文字が増加していた。漢字の造字法として，時代とともに象形性が弱まり，概念的な表示が増加することが指摘できる。